

祭魚洞文庫旧蔵水産史料解題

伝 来

本史料は、祭魚洞渋沢敬三氏が、その主宰するアチックミュージウム（後に日本常民文化研究所と改称）の事業の一環として、昭和七年以降に収集された文献史料の中、昭和二十四年に当館に引継いだものである。但し本目録には、右引継史料の主体をなす水産関係の史料のみに限って収録し、それ以外の分を除外した。もっとも、同一原蔵者による一連史料の場合は直接水産に関係のないものも一括して収録した。また水産史料中、最も纏った伊豆内浦大川家文書は、既にアチックミュージウムから「豆州内浦漁民史料」（四冊、昭和一二年—一四年刊）としてその大部分が印行されており、保管上も別途に整理されているため今回の目録には省略した。

本史料には旧蔵者の「祭魚洞文庫蔵書架票」による整理番号が貼附されているが、利用上の便宜を考慮して、地域別に整理しなおしたので、原番号とは無関係に新たに整理番号を付した。

整 理 法

本目録の収載史料は、総数約七千点である。これらの史料には、古書籍商等を通じて購入されたものが多いために、原所蔵関係を判定しにくく、原蔵者が同一と考えられる史料を纏めることに努力したけれども、再構成はなお充分とはいえない。従って、本来一連史料であるべきものが、別個に整理されているおそれがあることをまぬかれない。また、多地域に亘る資料は「一般」の項目に、史料の所属地名が不明な場合は「所属地不明分」の項にそれぞれ編入したから、利用者は単に当該地域の項のみでなく、「一般」・「所属地不明分」の項をも参看していただきたい。なお、会社・組合の定款・規則類は本店・事務所の所在地によって分類してある。

概 要

次に本史料の内容の概略を記せば、地域的には一応旧樺太・旧台湾を含む日本全国に及んでいる。然し、量的には千葉・兵庫両県下のものが圧倒的に多く、両県分で全体の約半分を占めている。年代の点では、近世前期から昭和一五年頃迄に亘っているが、全体としては幕末から明治中期迄のものが大部分を占めている。

内容的にやや纏ったものとしては、宮城県狐崎大肝煎平塚家文書、千葉県九十九里沿岸の網元其他による鰯漁関係史料、伊豆及び摂津における紀州藩産物寒天史料、大阪千鰯仲買仲間記録、赤穂塩業史料などを挙げることができる。この外にも、千葉県金谷村浜方名主尾形家文書、江戸日本橋魚市場関係史料、長崎魚問屋史料、各地漁業組合規約などめぼしいものをなおいくつか指摘することができるが、日本海沿岸地方や四国・九州方面の史料、及び水産加工業関係の史料は量的に少い。

本史料には、原資料と並んで祭魚洞文庫による採訪資料の筆写本が相当数含まれていて(目録中に⑤として示したもの)、研究資料として貴重なものが少ない。

因みに、本目録所収の史料を使用した研究が、アチックミュージアム彙報(日本常民文化研究所彙報)・アチックミュージアムノート(日本常民文化研究所ノート)の中に公刊されている。併せて参看されたい。

昭和三十五年三月二十五日 印刷

昭和三十五年三月三十一日 発行

東京都品川区豊町一丁目一三八
編集者 史料館

東京都新宿区市ヶ谷本村町一五
印刷者 大蔵省印刷局